

風を利用すると涼しい家ができるし、エアコンなしで過ごせる。ただ、外壁が傷みやすいので、素材は修理や交換が楽な天然の板材がいいですね。うちは秋田スギの板張りでエコ塗装を使って、屋根の軒の出を大きく取っています。最近よく見る庇のない箱型住宅は、秋田の沿岸部には向いていないかもしれない。10年くらいで外壁の手入れが必要だし、夏は日射で家の中が暑くなるでしょうね。

星 北上市は内陸で、秋田の横手市の影響を受けて特に雪が多いので、屋根対策が必要ですね。凸凹したデザインは谷ができて雪が溜まるので、外見はできるだけ単純にしようと心がけています。

直町 十和田市も内陸なので、八甲田からの流れて積雪は結構あります。冷え込みも青森県の市の中ではトップクラスの厳しさですね。以前、高台の家にお住まいの方から「道が狭く、年をとって除雪が充分できなくなると家に辿り着けないかもしれない。冬場に住むセカンドハウスがほしい」と相談を受けました。冬以外はほぼ空き家になりますから、常に基本料金が発生するオール電化よりも、使った分を支払う形がベターじゃないかなと思います。地域の状況、それぞれの住まい方、使い方に合わせて熱源の選定も変わりますね。

星 基本的に暖房は、温度調節できるものがいいですね。蓄熱式の場合、寒くないようにと、容量の大きいものを設置し

つてしまっけれど、基本がしっかりつくられていれば、なんら心配はないわけですから。

星 快適に住むための基本的なスペックは削ってほしくないですね。できれば最低限のスペックはやって、あとは予算が許せば付加断熱をこのくらい、というように。私たちとしては〇値1・5くらいで考えてもらいたいなあと。〇値1・0レベルなら、日射取得の関係もありますから、1・3くらいは必要でしょうが。

志村 地域によって違うので一概には言えないけれど、うちでは、屋根は235ミリのグラスウール充填を標準とし、付加断熱100ミリを内側に加工しています。壁も充填断熱とし、外側に付加断熱を設けて200ミリ以上にするのが多くなりました。基礎は防蟻のピース法ボリスチレンを内外50ミリ+50ミリです。付加断熱を追加すると、高性能化には坪2〜3万円かかりますが、数十年のランニングコストや快適性を考えると、余りある投資ですね。

直町 付加断熱をこれくらいすれば、年間このぐらいの暖房費ですみます、と云ってあげると説得力が違います。

星 温熱計算ソフトを使えばランニングコストは出せますね。私も昨年から断熱リフォームした家に住んでいるので、お客様には実体感をお話しています。

志村 トータルの快適性があるから、スペックとは違った満足感がありますよね。



<岩手県>
千田工業(株)
住宅事業部次長 星 博行 氏

北上市生まれ。高校から建築を学び、その後、建築一筋。「北上市文化交流センター さくらホール」の設計・監理にも携わり、「2008 エコ・ハウスコンテストいわて」で「二人のためのバリアフリー住宅」が大賞を受賞。



<秋田県>
志村建設(株)
専務取締役 志村 定弘 氏

由利本荘市生まれ。室蘭工業大学建築工学科で寒冷地住宅について学ぶ。大正9年創業の同社で、代々続く地元の工務店として、秋田県沿岸部で年間4〜5棟を建築している。平成9年度秋田県主催「コスト低減住宅提案募集事業」のコンペで特選受賞。

がちですが、日射が入るとオーバーヒートします。うちではパネルヒーター温水式暖房を使っています。

志村 蓄熱式には暖炉的な要素があるのでそれほど強力なものには付けずに、輻射熱の良さを生かしながら、温度調節はエアコンでする方法もありますよ。

直町 確かに、日射を生かすのであれば、エアコンのほうがフレキシブルに使えますよね。

志村 とはいっても、エアコンを付けた試しがない(笑)。それくらい新住協の高断熱・高気密住宅はいいですよ。

高性能住宅は未来への投資。基本性能は手を抜かない

直町 十和田市は青森県内でも収入が低い地域で、価格競争を強いられがちなんです。有名なローコストビルターも撤退ということで、彼らでさえも苦戦するなか、いろいろ工夫してやっていかなければならない。

志村 秋田県も全国的に見て所得が低いところなので、単価面の話は必ずついてまわりますね。

星 坪50万くらいと説明しています。

志村 新住協の建て方なら、将来、付加断熱もできますからね。「なんちゃって高断熱・高気密住宅」の場合、あとから断熱性能を上げようとするの大改造にな

地元工務店と二人三脚で地域の高性能住宅をつくる

志村 家を建てるときは10年後、20年後、30年後の家のあり方をイメージしてもらいたいですね。コスト優先になると、いま快適に住めれば良いと考えがちだけれど、もし予算が許してお客様にその気持ちがあれば、将来のエネルギー危機に対応させて、できるだけのことをやっておく。そういうスタンスが必要だと思います。

直町 家は建てた後のほうがずっと長いですからね。

志村 その点でも地場の工務店が一番だし、新住協はその集まりですから。オーブン工法だから、万一つの会社がつぶれても他の会社がきちんとメンテナンスできるし、改修できる。躯体は持ちますからね。

直町 設備関係が先にダメになっても、大概のメンテナンスには対応できますから、お子さん、お孫さんと長く住み継がれる家をつくってほしいですね。

志村 設備はこれからも進化していくだろうし、いま大事なのは住宅の基本性能でしょう。

星 長い目で見て、余裕を持って取り組んでほしいですね。そして、もっと家づくりを楽しんでほしいと思います。